

第23回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表

計算書類の個別注記表

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

株式会社バイ・テクノロジー

法令及び当社定款第14条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載することにより、ご提供しているものであります。

当社ウェブサイト <https://www.vtec.co.jp/>

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

- ・ 連結子会社の数 17社
- ・ 主要な連結子会社の名称 V Technology Korea Co.,Ltd.
V-TEC Co.,Ltd.
Shanghai VN Systems Co.,Ltd.
Kunshan V Technology Co.,Ltd.
VETON TECH LIMITED
オー・エイチ・ティー株式会社
株式会社プイ・イー・ティー
株式会社ナノシステムソリューションズ

② 連結の範囲の変更に関する事項

当連結会計年度より、株式会社ナノシステムソリューションズ及び株式会社フラスクを株式取得により子会社化したため、連結の範囲に含めております。

当連結会計年度より、V Investment China Co., Ltd.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

当連結会計年度より、V Technology Korea Co.,Ltd.はVN Systems Korea Co.,Ltd.を吸収合併したため、連結の範囲から除外しています。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した関連会社の状況

- ・ 持分法適用の関連会社数 3社
- ・ 持分法適用の関連会社の名称 株式会社日本生産技術研究所
Zhejiang Chip Sunshine Equipment Technology Co., Ltd
Xianyang CHVT New Display Technology Co., Ltd.

② 持分法の適用範囲の変更に関する事項

当連結会計年度より、Xianyang CHVT New Display Technology Co., Ltd.を合併会社として新たに設立したため、持分法適用の範囲に含めております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の内、Shanghai VN Systems Co.,Ltd.、Kunshan V Technology Co.,Ltd.、OHT (SHANGHAI)Incorporation.、VETON TECH(SHANGHAI)Co.,LTD.、V-Technology (SHANGHAI) Human Resource Management CO.,LTD.、V Investment China Co., Ltd.の決算日は12月31日のため、3月31日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券……………市場価格のあるもの
期末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
市場価格のないもの
移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

商品及び製品、仕掛品……………個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

原材料及び貯蔵品……………当社は、原材料は月別総平均法による原価法を、貯蔵品は最終仕入原価法を採用しております。なお、貸借対照表価額についてはいずれも収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

ハ. デリバティブ……………時価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産……………当社は、建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を、機械装置、工具器具備品については定率法を採用しております。
(主な耐用年数)

建物	3年～40年
機械装置	5年～8年
工具器具備品	2年～18年

ロ. 無形固定資産……………当社は、定額法を採用しております。
また、特許権については8年間、のれんについては3年～5年間で均等償却をしております。

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金……………売上債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金……………当社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。
- ハ. 製品保証引当金……………製品販売後のアフターサービス費用の支出（当社の瑕疵に基づく無償サービス費を含む）に備えるため、アフターサービス費用の支出実績を勘案した支出見込額を計上しております。
- ニ. 受注損失引当金……………受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失金額を合理的に見積ることが可能なものについて、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しています。

④ 退職給付に係る負債の計上基準

当社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産・負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益・費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は、純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めて計上しております。

⑥ 重要なヘッジ会計の方法

- イ. ヘッジ会計の方法……………繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。
- ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象…………ヘッジ手段
為替予約
ヘッジ対象
外貨建金銭債務および外貨建予定取引
- ハ. ヘッジ方針……………当社の内規である「デリバティブ管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

二、ヘッジ有効性評価の方法……ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、ヘッジ手段とヘッジ対象の外貨建金銭債務または外貨建予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、ヘッジ有効性の評価を省略しております。

- ⑦ その他連結計算書類の作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表)

前連結会計年度まで投資その他の資産の「その他」に含めて表示しておりました「関係会社株式」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より、区分掲記しております。

なお、前連結会計年度の「関係会社株式」は488百万円であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 4,162百万円

(2) 受取手形割引高 425百万円

4. 連結損益計算書に関する注記

受取保険金 40百万円

オー・エイチ・ティー株式会社の2018年7月の西日本豪雨災害による損害の保険金であります。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数
 普通株式 10,057,600株

- (2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
2019年6月26日 定 時 株 主 総 会	普通株式	773	160.00	2019年3月31日	2019年6月27日
2019年11月11日 取 締 役 会	普通株式	773	80.00	2019年9月30日	2019年12月9日
計	—	1,547	—	—	—

(注) 当社は、2019年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行なっておりますが、2019年6月26日定時株主総会決議の配当金については、当該株式分割前の株式数を基準に配当を実施しております。

- ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
2020年6月25日 定 時 株 主 総 会	普通株式	386	40.00	2020年3月31日	2020年6月26日

- (3) 当連結会計年度の末日における新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数
 普通株式 539,000株

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達には主に銀行からの借入により、資金運用は安全性の高い預金等により運用しております。デリバティブは、為替及び金利の変動リスクのヘッジに限定しており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形、買掛金及び電子記録債務は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。一部海外生産に伴う外貨建債務については、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約及び直物為替を利用してヘッジしております。

借入金は、主に運転資金及び企業買収資金に係る資金調達を目的としたものであり、借入期間は1年以内と1年超と混在しております。

デリバティブ取引は、外貨建の営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等(4) 会計方針に関する事項⑥重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、担当部署が販売管理規程に従い、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

ロ. 市場リスク（為替及び金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建の営業債権債務について、通貨別別別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約及び直物為替を利用してヘッジしております。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、借入金の一部に金利スワップを利用しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引の基本方針や範囲、運用管理体制等を定めた社内規定に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

ハ、資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理
 当社は、担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持
 などにより流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に
 算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでい
 るため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の
 とおりであります。

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	12,101	12,101	—
(2) 受取手形及び売掛金（※1）	23,852	23,852	—
(3) 電子記録債権	368	368	—
(4) 投資有価証券	50	50	—
資産計	36,372	36,372	—
(1) 支払手形及び買掛金	8,095	8,095	—
(2) 電子記録債務	5,051	5,051	—
(3) 短期借入金	200	200	—
(4) 1年内返済予定の長期借入金	2,545	2,545	—
(5) 未払金	796	796	—
(6) 未払法人税等	115	115	—
(7) 長期借入金	8,861	8,858	△3
負債計	25,667	25,663	△3
デリバティブ取引（※2）	—	—	—

（※1）受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正
 味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらはほとんどが1年以内に決済されますが、その一部に契約条件等により1年を超えるものが含まれております。このため一定期間ごとに分類し、その期間に見合う国債の利回り等適切な指標により割引いた現在価値に信用リスクを加味して時価を算定しております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、(4) 1年内返済予定の長期借入金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

これらの時価については、残存期間における元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価については、取引先金融機関から揭示された価格等によっております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	2,928円74銭
(2) 1株当たり当期純利益	338円99銭

当社は、2019年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式、関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のあるもの………期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のないもの………移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品、仕掛品………個別法に基づく原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品………原材料は月別総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)、貯蔵品は最終仕入原価法

③ デリバティブ………時価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

建物、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物……定額法

機械装置、車両運搬具、工具器具備品………定率法

なお、耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～18年

機械装置 5～8年

工具器具備品 2～18年

② 無形固定資産

特許権

8年間で均等償却

のれん

5年間で均等償却

(3) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(4) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金……………売上債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金……………当社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。
- ③ 製品保証引当金……………製品販売後のアフターサービス費用の支出（当社の瑕疵に基づく無償サービス費を含む）に備えるため、アフターサービス費用の支出実績を勘案した支出見込額を計上しております。
- ④ 受注損失引当金……………受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失金額を合理的に見積もることが可能なものについて、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しています。
- ⑤ 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、計上しております。退職給付引当金および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法……………繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象……………ヘッジ手段
為替予約
ヘッジ対象
外貨建金銭債務および外貨建予定取引
- ③ ヘッジ方針……………当社の内規である「デリバティブ管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法……………ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、ヘッジ手段とヘッジ対象の外貨建金銭債務または外貨建予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、ヘッジ有効性の評価を省略しております。

(6) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(貸借対照表)

前事業年度まで流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「貸付金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より、区分掲記しております。

なお、前事業年度の「貸付金」は25百万円であります。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 1,358百万円
- (2) 保証債務額
以下の関係会社の受注に対する入札・履行保証等を行っています。
Kunshan V Technology Co., Ltd. 1百万円

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権	6,251百万円
② 短期金銭債務	508百万円

(4) 受取手形割引高 425百万円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高 3,933百万円

仕入高 2,813百万円

販売手数料等 2,430百万円

営業取引以外の取引による取引高

受取利息及び配当 620百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び数

普通株式 388,111株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(繰延税金資産)	(百万円)
賞与引当金	81
製品保証引当金	197
受注損失引当金	21
退職給付引当金	55
貸倒引当金	89
未払金等否認額	261
たな卸資産評価損否認額	1,070
その他	25
繰延税金資産小計	1,803
評価性引当額	Δ1,327
繰延税金資産合計	476
(繰延税金負債)	
繰延税金負債合計	—
繰延税金資産の純額	476

7. リースにより使用する固定資産に関する注記

オペレーティング・リース取引

未経過リース料

1年内

5百万円

- (注) 1. 取引金額には消費税は含まれておらず、期末残高は消費税を含んでおります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
- (1) 販売価格は、各関連当事者の得意先販売価格に一定の率を乗じた金額としております。
 - (2) 部品の購入価格は、主として当社の得意先販売価格に一定の率を乗じた金額としております。
 - (3) 販売手数料は、一定の合理的な基準に基づき決定しております。
3. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

9. 1 株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 2,682円66銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 383円59銭 |

当社は、2019年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。